

令和8年 第6回教育委員会（会議録）

令和8年6月17日（水）

午前9時30分～

坂祝町中央公民館 3階会議室

日程第1 開会

※教育長が開会を宣言する。

出席委員確認

	教育委員	古田 博英
		兼松 悟
		原口 かおり
		安江 紫乃
	教育長	渡辺 英哉
教育委員会事務局	教育課長	井上 大輔
	こども課長	岩井 正義
	教育課主幹	前田 加代子
	教育課係長	林 伸孝
	教育課係長	千年 陽子
	教育課主査	飯沼 由紀子

日程第2 前回教育委員会の確認

※教育課長が資料に基づいて報告をする。

日程第3 教育長、教育委員報告事項

教育長 私からは、大きく分けて2点お話しします。1点目は、6月定例議会での対応についてです。今回の議会では多くの質問をいただき、教育課長が最も多く答弁に立ちましたが、私への質問を通じて特に考えたのは、学校の先生方に「子どもを掴む力」をさらにつけてもらわなければならないということです。子どもの具体的な言葉や姿を捉え、その裏にある心情や状況を、教職員間で対話しながら掴んでいくことが不可欠であると改めて感じました。質問の内容は、不登校の現状を皮切りに、主に中学校での複数担任制の導入検討についてでした。本町における不登校の数は全国で比べると少ないものの、以前に比べれば微増しており、注視が必要です。担任の負担を軽減し、働き方改革を進める一方で、子どもの情報を共有する環境を作るために、複数担任制は有効であると考えています。ただし、導入にはこれまでのやり方を大きく変える必要があり、大人側の準備がとても大変です。慎重に検討を進めていきますが、仕組みを導入せずとも、日常的に廊下での立ち話などで子どもの姿を共有できる文化が当たり前になれば、それが最も望ましい姿であるとも考えています。2点目は、先日開催された「町民の集い」についてです。若者の参画を大切にする上で、

まず大人がすべきことは「子どもの声を聞く」こと、そして「待つ」ことだと痛感しました。今回、中学生に配布した資料のサイズなども、実は子どものアイデアです。先行して活動されている高山市の事例では、子どもたちが自ら町のために何かをやりたいと言い出すまでに8年、具体的なアイデアが出るまでに10年かかったという話もありました。「自主性」と「主体性」は異なります。自主性は決められたことを自ら進んでやることですが、主体性は自分自身で何をしたいか考えることです。大人がお膳立てをして「ここを任せるよ」と言うだけでは主体性は育ちません。自分の過去の教育経験も反省しつつ、大人が子どもの一歩を信じて待つ姿勢を、皆さんと共有したいと思いました。

古田委員 先日の加茂郡体育大会の様子を見て感じたことです。毎年見学していますが、同じ方が参加されている印象があり、今後の体育協会の広がりについて不安を感じました。かつては自治会のソフトボール大会などが地域交流の大きな意味を持っていましたが、今はそのような活動が減少しています。現在熱心に参加されている方々から、どのように地域全体へ広げていくかが課題だと思いました。もう一点は、青少年の発表についてです。教育長のお話の通り、私も同様のことを感じました。子どもの頃から様々な体験をすることが、数年後に主体的に動く大人へとつながるのだと、講演を聞いて改めて強く感じました。

兼松委員 私からは2点あります。1点目は、他県で起きた修学旅行中の悲しい事故についてです。新聞では「平和教育に躊躇する学校は悩ましい」という見出しもありましたが、本質は「子どもを安全に参加させること」にあります。最近では子どもの自主性を重んじるあまり、教員が同行しない班活動が増えています。学校だけの安全管理には限界があります。下見の徹底や引率者の増員など、危険性を十分に考慮した行事の見直しが必要だと思います。2点目は、GIGAスクール構想で導入されたタブレットが6年を迎え、更新時期に入っているとのことで、廃棄費用に対しての補助金などはありますか。

千年係長 タブレットの廃棄については、データの流出防止を最優先に考えています。大手メーカーに依頼すると多額の費用がかかるため、現在は「粉碎処分」にするか、データを確実に消去した上で中古市場に売却して歳入とするか、2つの方法を検討中です。近隣市町村では粉碎処分を選択するところが多いですが、本町としても安全性を確保した上で最適な方法を決定する予定です。なお、新しく買い替える際の購入費用には国からの補助金が出ますが、廃棄費用は町の負担となります。

安江委員 町民の集いについては、非常に楽しみにしていましたが、残念ながら都合が合わず参加できませんでした。後ほど広報誌などで内容を確認したいと思います。教育長がお話しされたチーム制による支援についてですが、ちょうど昨日、学校から4年生の担任が交代する旨の連絡がありました。親としては多少の動揺はありますが、子どもはまだ実感がありません。私が福祉の現場にいた

頃は、チームで対象者を見ることは当然であり、複数の視点で捉えることは負担軽減やリスク管理の面でもプラスだと感じていました。学校は担任一人が全てを負う仕組みだと聞き、逆に驚きました。今回の担任交代も、多様な視点で見てもらえるというプラスの面もあるのかと捉えています。子どもが落ち着いて学校生活を送れるよう、様子を見守っていきたいと思います。また、資料にある海研修についてですが、民宿の利用や船に乗ることなど、安全面への配慮をよろしくお願いいたします。

原口委員 5月に中学校の体育大会がありました。中学生らしいまとまりがあり、特に1年生が小学校の頃とは違う中学生の顔になって生き生きと活動している姿に驚きました。秋に向けてどのように成長していくのか楽しみです。次に、よく観ているドラマでも「主体性」と「自主性」がテーマになっており、教育長のお話と重なって非常に心に刺さりました。先輩から受け継いだ企画に取り組む姿は最初は「自主性」であっても、自分で気づき、悩んで新たなものを作り上げることで「主体性」に変わるという過程は、子どもたちの気持ちを捉える上で重要だと感じました。チーム制については、かつて別の中学校で導入された際、保護者から「誰に相談していいかわからない」という声や、連絡が疎かになったという話を聞いたことがあります。チームになった途端、責任の所在が曖昧にならないよう注意が必要だと思います。最後に、社会福祉協議会の評議員会に出席した際、町民まつりへの子どもの参画について話がありました。非常に良い機会ですが、以前古田委員が指摘されたように、定期テストの時期と重なる懸念があります。大人の都合で進めるのではなく、子どもが活動しやすい時期を考えていただけるとよいと思いました。

教育長 テスト期間との重複については、まさに子どもの声を聞く中で調整すべき課題です。町民まつりは11月の第3日曜日の「家庭の日」と毎年決まっていますので、学校とうまく調整できたらと思います。また、チーム制での戸惑いについては、誰に聞いても共有されているという状況を完璧に作るのは難しいですが、覚悟を持って進めていく必要があります。

日程第4 議事

(付議事件)

報告第11号 教育長に委任された事務の執行状況の報告について

古田委員 後援名義の行事について、終了後の反響などは把握していますか。

教育課長 実績報告として必ず受け取っており、その中に結果は載っています。

古田委員 以前、後援許可した団体の行事で後にトラブルにならないか懸念したこともありましたが、教育課まで評判はなかなか届かないとは思いますが、情報を得られるとよいと思います。

議案第 28 号 坂祝小中学校準要保護児童生徒の認定について

※議案について、承認。

日程第 5 その他

当面する教育関係諸行事について

※事務局から資料に基づいて説明をする。

ゆるトーク新聞について

林係長 昨年度行った「ゆるトーク」の結果をまとめたものを「ゆるトーク新聞」として、小学校 5・6 年生、中学校全生徒に配付しました。また、町の公式 LINE に「ユースナビ」というカテゴリを作成し、中学生に登録案内し、若者向けに発信したい内容が直接本人へ LINE で届く仕組みをつくりました。

日程第 6 閉会

※教育長が閉会を宣言する。

閉会 午前 10 時 35 分